



## ◆クラスルームの管理

不要なクラスルームは「削除」か「アーカイブ」が可能です。整理を行っておくことで新年度に児童生徒がどのクラスルームを使うか迷いません。どちらも、クラスルームで作成・配布されたデータは、Googleドライブに保存されているため消えることはありません。これらの削除を行いたい場合は、Googleドライブから行う必要があります。

	削除	アーカイブ
操作可能者	担任(オーナー・作成者)のみ	担任(オーナー・作成者)と担任以外の教師(副担任等)
データの挙動	ストリーム等の連絡や課題が完全に削除される	「アーカイブされたクラス」から閲覧可能で復元も可能

## ◇「アーカイブ」と「削除」の手順

(1) クラスの「⋮」から「アーカイブ」を選びます。 (削除を行う場合も一度アーカイブが必要です)	(2) 表示された注意事項を確認し「アーカイブ」を押します。 これでアーカイブは完了です	(3) 削除する場合は、左上の「≡」から「アーカイブされたクラス」を選び、アーカイブ済みのクラスを表示させます	(4) 対象のクラスの「⋮」から「削除」を選択します。 注意事項を読み、もう一度「削除」を押します

## ◆ロイロノートのノートを書き出す方法(エクスポート機能)

ロイロノートをノートのまま書き出す方法をご紹介します。ノートのまま書き出しをすることで、異動先の学校でも、作成した教材を使用することができます。(※異動先学校がロイロノートを導入している場合に利用可能)

(1) ノート一覧を開き、右上の3点リーダーを押します	(2) 現れたメニューから、「エクスポート」を選びます	(3) エクスポートを行うノートを選び、右上の「書き出し」をクリックします	(4) 保存先を尋ねられた場合はGoogleドライブ等へ保存してください。右下に「ダウンロード完了」と表示されたら書き出し完了です。

# Chromebook活用風景

## ◆厚陽小学校 6年 プログラミング授業

厚陽小学校ではプログラミングに関連した授業が複数回行われました。

1回目の授業	2回目の授業	3・4回目の授業
理科の教科書付属のツール:QRコード	Scratch	mBot
「人感センサー」と「明るさセンサー」に連動して動作する「照明器具の反応」について考える授業	正三角形を描くプログラムを元に、正多角形についてもどうすれば描くことができるか考える授業	mBotの動きやセンサーの値を確認し、自由にプログラムを組む授業

1回目の授業では人感センサーと明るさセンサーが何を感知して動作するのかを確認して、それぞれのセンサーが照明をオンにする条件を満たしている場合と、満たしていない場合の照明器具の反応を考えます。問題が複雑になっても児童らは直感的に答えることができ、内容を理解している様子でした。

2回目の授業では、初めにICT支援員によってプログラムや考え方の説明が行われました。曲がる角度や線を引く距離などを各々で変え、どのように変化するかを見て、どうすれば目的の正多角形になるかを考えます。

3回目と4回目の授業では、mBotの動きやセンサーの反応を確認し、その後は児童自身が自由にプログラムを組みました。「障害物を避ける」「進む方向をキーボードで動す」「LEDを光らせる」「音を鳴らす」など、それぞれのやってみたいことを実現するためのプログラムを作成し、動作を検証して確認をするを繰り返していきます。自身で課題を設定して、どうすれば実現できるかを考え、トライ&エラーを繰り返しながら目的達成に近づけていく授業となりました。



超音波センサーに反応させるため、mBotの前に手を置く様子



完成したプログラムを共有する様子



想定と違う動きをするmBotを止めようとする様子

## ◆竜王中学校 2年 調べ物学習にchromebookを活用

情報を集める手段は、ネット検索と書籍が許可されています。インターネットで得られた情報がすべて正しいわけではないことを意識させるため、書籍からの情報収集を追加しています。



Googleドキュメントでレポートを作成している生徒



熱心に調べ物をしている生徒たち